

イノベーション・ハブ「カナダ」が誇るスタートアップ



徳永 陵
カナダ大使館 上席投資担当官

カナダのテック業界への注目

近年のカナダのテクノロジー企業への熱い視線は、AIにかかわる基礎研究の強みに端を発する。ディープ・ラーニングのパイオニア的研究者の存在が、世界中からAI研究者をカナダに惹きつけており、人口当たりのAI特許数がG7の中で最も多い。また、過去10年間の民間AI分野における新規投資額は30億加ドルにものぼり、国内で670以上の企業が5万人以上を雇用している。特にトロントとモントリオールには、世界有数のAIスタートアップ・クラスターが形成されてお

り、それが他のあらゆる産業に大きなインパクトを与えている。

カナダ・スタートアップの特徴と日本市場進出済み企業の事例

カナダ・スタートアップ業界を取り巻くカナダ産業の特徴からみてみたい。まず、横軸として産業の分布が国土の東西にわたっており、西は林業や映像産業、中央は鉱物・石油産業と農業・畜産業、東は自動車・航空産業やAI・ゲーム産業と、各地域で戦略投資による産業クラスターがみられる。その一方、縦軸としては、アメリカ・メキシコとの経済的な連携とアクセスのしやすさが強みとしてあげられる。さらに、高度人材集積の観点も、カナダのイノベーションやスタートアップを語るうえでは重要である。世界一の大学人口比率、世界トップレベルの高等研究機関、国をあげたR&Dへの投資と支援、そしてアメリカにも勝るほどの人種・文化の多様性と移民の積極的受け入れなど、世界で起きている人材確保競争で優位に立つ強みが、カナダに着実に好循環をもたらしている。

アメリカや中国のスタートアップ企業が注目されるなか、実は多くのカナダのスタートアップ企業も日本市場に参入している。大手・中堅ではBlackberry、Shopify、Moment Factory等の企業が知られているが、近年日本に進出してきたスタートアップでは、以下のような企業がある。

①Mappedin社（ウォータールー）：屋内にあるモノのリアルタイムのデータセットを管理し、物理的な検索体験を強化するための企業向けSaaSプラットフォームを構築し、屋内での3D道案内・ナビゲーションを提供している。日本国内においては商業施設での導入や行政機関による実証実験なども行われており、デジタル化されたアフターコロナの新しいソリューションとして、今後も日本国内での採用が期待される。

Innovate with Canada, Elevate your Business



Agorize社の所感 (Agorize Japan COO 吉田氏)

Agorize (オープンイノベーションSaaSを提供し、イノベーションチャレンジやコンテストを世界中で支援する企業)としては、今回のカナダ・スタートアップ企業15社を高く評価している。登壇スタートアップ企業すべてが先端技術に基づいたユニークなサービスを持ち、日本企業との連携や日本市場への参入戦略にかかわる準備も周到に行っている印象があった。また、創業者が積極的に商談の場に参加している点でも、強い本気度が感じられた。日本語対応まで至っていない企業が大半であるものの、カナダ大使館の支援を受けて準備・対応を進めており、日本国内での実績作りに焦点を当ててローカライズに対する不安解消に努めている姿勢が伺われた。

言語や文化の違いが参入障壁となり、人的および資本リソースが豊富にある企業のみが海外連携できていたのは過去の話となり、今後はいかに素早くシナジーのある企業を発掘し、連携して事業展開できるかが重要な要素となるだろう。今回、カナダ大使館による支援への委託事業を通じて、カナダにはテクノロジーと企業文化の両面から、日本企業と連携シナジーを得やすい企業が多い印象を受けた。これからも、両国のテック・ビジネス連携に期待したい。

②Spare社 (バンクーバー)：交通量の増加による渋滞悪化、駐車場不足などの課題解決を目指し、リアルタイムで配車できるオンデマンド方式のライドシェアリングアプリを提供するスタートアップ企業。公共交通機関やマイクロバスと連携し、既存のバス停の利用やミーティングポイントの設定が可能になる。また、AIが予約状況や渋滞情報を学習することでより効率的な運行が実現される。日本国内では現在、福岡市や大阪市にて実証実験に向けた事業実施中。

カナダ大使館によるスタートアップ企業とのマッチング機会の事例「Canada Startup Showcase 2021」

カナダ政府は、日本企業とカナダ・スタートアップ企業のイノベーション連携に向けて積極的な支援を行っている。たとえば在日カナダ大使館商務部では、商談会やイベント展示などを通じて、厳選されたスタートアップ企業を日本企業に個別紹介する取り組みを幅広い産業で定期的に行っている。その中で、アゴライズ (Agorize) 社に委託して2021年3月に行ったオンライン完結型のマッチング・イベントに参加した15企業のうち、数社を紹介したい。

①TransEON社 (エドモントン)：無線通信・レーダーハードウェア用の集積回路の開発・製造に特化した半導体スタートアップ企業。既存のGaN製品よりも高い性能を発揮する次世代のナノスケールGaNデバイスを開発し、すでに宇宙企業のパワーアンプや医療メーカーのMRIにも導入されている。

■希望連携：日本国内の通信・自動車・航空宇宙産業における連携メーカーを募集中。

②Soundpays社 (トロント)：人には聞こえない超音波を発信してスマホに情報を送信し、広告表示や決済につなげるソリューションを提供するスタートアップ企業。スマホ上で気になる広告製品の情報やお店のクーポンなどをその場で得ることができる仕組みであり、イベント・試合・テレビ・店舗など幅広い場所で活用可能。

■希望連携：自社ブランドを持つ企業だけでなく、広告関連企業、施設会場・イベントなどを管理運営する企業によるサービス導入を募集。Soundpays社への投資検討も募集中。

③Airex Energy社 (モントリオール)：バイオマス廃棄物を再生可能なバイオカーボン製品 (バイオ炭など) に変換する焙焼処理技術とプロセスを提供するスピノフスタートアップ企業。生成されたバイオカーボン製品は、発電やセメント生産に用いる石炭やカーボンブラックやコークスといった活性炭の代替品や、穀物生産時に必要な土壌改良剤としても利用可能。

■希望連携：日本におけるバイオ炭の販売拡大、そしてバイオ炭の使用を通じてGHG削減目標達成に向けて活動するパートナーを募集中。

④OVA社 (モントリオール)：AI対応の没入型ソフトウェアを開発し、教育、従業員トレーニングのシミュレーション、プロトタイピング、ビジュアライゼーションといった業務を仮想現実・拡張現実・複合現実で行えるシステムを提供するスタートアップ企業。北米では大学や軍、そして医療機関でも導入されており、日本では現在Nikon社等と協業中。

■希望連携：日本におけるシステム導入企業、連携パートナー募集中。

カナダ・スタートアップ15社のリストはこちら：

<https://eventregist.com/e/canada-startup-showcase-2021>

お問い合わせ**JOI事業企画部**

E-mail: bd@joi.or.jp、TEL: 03-5210-3311

カナダ大使館 上席投資担当官 徳永 陵

E-mail: Ryo.Tokunaga@international.gc.ca

<http://www.canadainternational.gc.ca/japan-japon/index.aspx?lang=jpn>